



信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか④

後ろ姿の霊性

―背中が伝える信仰の感覚―

日本カトリック神学院 熊川 幸徳

信仰の「教え方さん」たち

「信仰の道はたった一人で歩む道ではありません」(日本カトリック司教団「信仰年」メッセージ)「信仰の恵みを見つめ直す旅に招かれて」

五島列島玉之浦町が私の故郷である。最初に信仰の手ほどきをしてくださったのは、地元五島の人たちだ。耳を澄ませば、今でも主任司祭や「教え方さん」の声が聞こえてくる。いや、声だけではない。立ち姿や表情、けいこ部屋の机や壁の色まで、何もかもが鮮やかによみがえってくる。教会でも家庭でも信仰の「教え方さん」に事欠くことはなかった。一人の信仰者の歩みに、一体どれだけの人が関わっているのだろう。私の信仰の感覚は、お世話になった全ての人たちのそれでもあると信じている。キリスト者、非キリスト者に関係なく…。

子どもの頃は、毎晩ロザリオと晩の祈りを家族そろって唱えるのが常であった。信者の家庭であれば、どこにでも当たり前にあった光景だったろう。かつての我が家は、という理由かはよく覚えていないが、人の出入りがやたらに多く、親戚やいとこたち、また近隣のおじさん、おばさんたちがよく遊びに来ていた。しかし、来客を理由に祈りが中止になることはなく、親戚が来れば親戚と、いとこたちが遊びに来ればいとこたちと一緒に祈りを唱えていた。

あんたも一緒にするね

ある日の夕方、「おとかな」と玄関の間から中の様子をうかがう御仁があった。近所に住む某中年男性だ。カトリック信者ではないが、父の友人でいわゆる常連さんの一人である。酒好きで、陽気な人。ただし一度上がり

いた父は、小さく拳骨を振り上げるようなしぐさをして「数珠じゃなか、ロザリオ！」当時、私の住んでいた町内では信仰の守り方が厳格であった。そのため、数珠とロザリオを一緒にしたというので、父もむきになったのだろう。

父のロザリオ指導

父がロザリオの使い方を簡潔に教えて、祈りが始まった。父とおじさんが前に並んで座り、私と母が後ろに座った。父は前を向いて一生懸命先唱をし、隣のおじさんに注意を払っていない様子であったが、やはり途中で、おじさんのロザリオがどうなっているのか気になったとみえ、先唱をしながらチラチラと隣に目をやっていた。そして、やっぱりちゃんと使えていないようだと思ふと、おじさんの手からロザリオを取り上げ、「今こまで進んでいるから、ここを握りなさい」という意味で、正しい位置を教えて返した。

それでも、初めての人がいきなり、信者と同じように使えるはずがなく、相変わらず同じところを握り締めている様子だったので、父は一回一回、「めでたし」を唱えるたびに、自分のロザリオを少し上に持ち上げ、自分が繰るときに「同じようにせよ」という合図を送っていた。できないと合図の仕方がやや大きくなり、うまくできると、声には出さなかったが「そうそう」という

「祈りばする？」一瞬何を言われたのか理解するまでに時間がかかったようだ。きょとんとしたまま、しばらく黙っていた。熟慮の末、このおじさんが出した答えは「はい、一緒にします」。潔い返事だった。父は父で予定外の母の発言に少しおどおどしていたが、我が家ではいつの頃からか母の力が父をしのいでしまい、とうとう酒を一時中断して、家庭祭壇の前に4人集まることになった。父も観念し、「こいでお祈りばするけん」と祖母の形見のロザリオをおじさんに渡した。

こちらは初めて目にするロザリオだったようで、神妙な面持ちのまま、ありがたそうに両手に押し頂き、しばらく拝むような姿勢をとっていた。しかし、酒も入って気持ちが大きくなっていったのか、自分とは違う宗教の信者が伝統的に大切にしている信心道具だということも忘れて、「なんか、数珠のごたんな」と言ってしまった。それを聞

た感じで深くうなずき、褒めていた。

後ろでその様子を見ながら、ぼんやりと考えていた。思えば、自分も同じようにロザリオの唱え方を教わったのだと。私に祈りを教えたのは父であり母である。父はかつて私に教えた時と同じように、おじさんにも丁寧にロザリオの使い方を教えていた。自分を重ねたせいではないと思うが、おじさんがまるで子どものように見えた。酒を飲んでいては、難しい言葉を次から次に繰り出す、恰幅のいい立派な大人に見えたのだが、父にロザリオの手ほどきを受けながら、一生懸命祈っていた姿は、本当に子どものようであった。真剣に祈る姿を見て、自分たちは雑な祈り方をしてきたのではないかと思っただけである。

後ろ姿が語るもの

背中には多くのことを教えてくれる。子どもが学ぶのは、実に「後ろ姿」かなのだ。信仰伝達においても欠かせないのは、祈る人の「後ろ姿」であろう。互いが正面から向き合うことの大切さ、対話やコミュニケーションの価値については多くの人が認める通りである。しかしその一方で、背中への価値が遠のいていないか、気がかりである。「後ろ姿の霊性」がどこにおいても大事にされ、家庭でも教会でも尊ばれんことを願うものである。

召命の実りのために

心聖母会とお告げのマリア修道会の

平戸地区評議会

米・野菜などを援助

昨年11月25日、平戸地区評議会の山浦忠行議長ら代表者が来崎し、神学生・志願生のための援助物資と寄付金を長崎カトリック神学院に届けた。



謹賀新年

2013年1月1日

()内は叙階年数

大司教	高見 三明(40)	山田 聡(29)	鶴崎 伸也(10)
長崎大司教区		中村 満(28)	マイケル・ヒルデン(39)
原塚 正人(62)	諫 早市	岩崎 康彦(28)	三井葉・貝津
道向 栄(60)	五 島市	川内 和則(27)	伊太リ
佐藤 哲夫(56)	大司教館	久志利津男(27)	早 岐
川添 英利(52)	熊本・帯山	高野 治(27)	小神学院
下川 豊(52)	平 戸市	山下 盛朗(26)	水ノ 浦
山内 義和(51)	大司教館	鳥瀬 文武(26)	紐 口
川原 清海(51)	お告げ本部	牧山 倫明(24)	大 神 学院
山内 徹(50)	大司教館	中村 強美(24)	植 松
下村 司(50)	大司教館	福島 光明(23)	天 神 学院
村中 司(50)	大司教館	眞浦 健吾(23)	小神学院
三村 誠一(49)	大 山 浦	中濱 新一(22)	深 堀
平野 勇(49)	鹿 子 前	紙崎 敬司(23)	堀 佐
野下 千寿(49)	センター	白浜 満(22)	大 神 学院
堤 好治(49)	佐賀・呼子	岩崎 晋吾(20)	青砂ヶ 浦
宮川 俊行(49)	幼きイエズス	山崎 憲一(21)	八 幡 町
小島 栄(48)	修道会司祭館	鍋内 正志(21)	浦 頭
萩原 功(46)	香 浦 焼	中田 英知(20)	セ ン タ ー
阿野 武仁(46)	三 浦 町	湯浅 俊治(18)	大 神 学院
川上 忠秋(45)	浅 津 子	浅田 昭明(18)	西 木 場
片岡 久司(45)	出 津 尾	大水 文隆(18)	三 ツ 山
川口 靖彦(44)	神 津 崎	辻原 達也(17)	奈 留 崎
長谷 功(44)	時 津 崎	川原 拓也(17)	桐 崎
橋本 勲(43)	上 神 崎	松田 聡史(16)	長崎コレジオ
山川 忠(43)	セ ン タ ー	山本 一郎(15)	中央協議会
下口 勲(40)	福江・浜脇	中島 誠志(15)	山 田
大山 繁(39)	黒 崎	山田 良秋(14)	島 原
松下 光男(37)	水 主 町	川口 昭人(14)	神 ノ 島
小瀬 昌彦(37)	セ ン タ ー	一ノ瀬輝幸(14)	熊本・武蔵ヶ丘
村川 昌彦(36)	大 崎	岡 秋美(14)	馬 込
山内 実(35)	北海道・函館	熊川 幸徳(13)	大 神 学院
諸岡 清美(35)	大浦天主堂	竹内 英次(12)	黒 島
岩村 知彦(31)	大浦天主堂	尾高 繁幸(11)	仲 島
島山 邦夫(31)	鯛 之 浦	川原 昭如(11)	大司教館
古果 馨(31)	大司教館	葛島 輝義(10)	福江・浜脇
山脇 朝光(30)	青 方	工藤 秀晃(10)	大 野

マイケル・ヒルデン(39)	城山	山野 聖嗣(7)	チャリー・バスエボ	・ボムセノ(2)	●レデンプートル会	頭島 光(25)	橋口 啓悟(16)	●フランシスコ会	片岡 哲夫(60)	冷水 義美(60)	片岡 仁志(50)	戸村 悦夫(44)	江夏 国彦(33)	若林 智樹(17)	●神言修道会	川上 進(42)	濱口 末明(33)	聖ルドヴィコ神学院	ジエブラ・エウゲニウス(25)	大川 好洋(22)	松本 勝男(21)	ヴァルガス・オスヴァルド(14)	ロボ・フェリックス(10)	新立 大輔(9)	聖ルドヴィコ神学院	パサラ・ジョゼフ(2)	西町	●マリア会	山崎 善彦(43)	池田 紀行(42)	末吉 克久(30)	松本 幸徳(25)	高田 裕和(20)	●サレジオ修道会	プリ・ヤンアロイシイ(31)	ソボン・タデウス(27)	古木真理一(25)	●オプス・デイ	尾崎 明夫(27)	小寺左千夫(16)	●鹿児島教区	田邊 徹(61)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ミ	山	ク	バ	エ	ル	愛	ク	会	長崎修道院	ク	ク	本	ク	ク	長崎修道院	長崎修道院	ク	神学院	ウ	ク	長崎修道院	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク

韓国の教会と交流

日韓司教交流会



第18回日韓司教交流会が昨年11月13日(土)15日、大邱大司教区慶州市内のホテルで開催された。韓国から18人、日本から14人の司教、双方のスタッフ、通訳など、総勢42人が参加。昨年に続いて原発問題を学んだ。

2日目の午前中は、環境運動連合のキム・ヘギョン女史が「韓国の原発問題と現況、脱原発運動の方向」(南山大学のマイケル・シーゲル神父が「原発に関するカトリックの姿勢を探って」と題してそれぞれ講演。午後は、バスで1時間ほどの東海岸にあるウォルソン原発を見学。ヤンナム教会で、信者たちと一緒にミサをささげた。最終日は分科会と全体集会、ミサを行った。

意識の差はあるが、原発問題を共有できた交流会となった。領土問題に関する意識のずれはあるが、今後も交流を続けることを確認し合った。

平戸ザビエル祭

12月2日(日)、平戸ザビエル記念教会でザビエル祭が行われた。高見三明大司教と平戸地区司祭団の共同司式で捧げられた記念ミサには、木鉢教会の巡礼団をはじめ約300人の信徒が集まり、日本宣教の保護者である聖人の取り次ぎを願った。



高見大司教は説教で、「私たちは福音宣教を、教会の外に向かって呼びかけることを考えがちだが、私たち自身が福音にあずかる者となり、常に新しくされることでもある。福音を神の恵みとして伝えていくことは、聖職者だけでなく一人一人の信徒の務めでもある」。

教区司祭研修会

長崎大司教区司祭年金委員会(委員長 中村満師)の呼びかけで11月13日、教区司祭全体会が長崎大司教館で開催された。これは、「教区司祭の年金保険規約」(2005年7月1日発効)に基づく教区司祭のための「年金保険基金」の創設とその保険制度設計案を全司祭に説明し、司祭たちの意見・要望を聴取するためのもの。

ベテラン・中堅・若手の3つの世代別に分団会が行われた。今回の全体会において基本的な考え方が共有され、指している。

キリストの花嫁として

お告げのマリア修道会誓願式

12月8日、長崎市小江原にあるお告げのマリア修道会本部聖堂にて高見三明大司教の司式により、初誓願、終生誓願のミサが行われた。

約300人の参列者が見守る中、終生誓願を宣立した浦めぐみ修道女は、「信仰の喜びを生き方で示し、いつの日か『あなたにわたしの愛する子』とうれしそうに一人一人を迎えてくださる御父のもとに飛ぶことができるよう、忠実に生きていきたい」と決意の言葉を述べた。

活動の喜びを分かち合うために

下五島地区連合婦人会では、会員皆で活動する喜びを分かち合えればと、巡礼と講演会を企画した。

下五島地区連合婦人会では三井東教会と貝津教会。婦人会指導司祭である岩崎晋吾神父をはじめ70人が集い、祈りと聖歌を捧げた。母親と参加した5歳の女の子が、小さな手を合わせ一生懸命祈る姿がほほえましかった。

岩崎神父の講話の後、評議員の説明により教会の歴史を学んだ。ゲームなどで親睦が深まり、帰りのバスの中は、最後まで笑い声が絶えない楽しい巡礼となった。

短 信

●11月17日(土) 17時、長崎市西坂の聖フィリッポ教会で、結城了悟神父(イエズス会)の追悼ミサが行われた。キリスト史研究の第一人者として広く知られる結城神父は、188殉教者列福式の1週間前、2008年11月17日に帰天。4年目のこの日、高見三明大司教と司祭7人が共同司式し、参加した信者らと共に生前の師をしのんだ。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・洗礼者ヨハネ深堀政美神父の逝去につきましては早速、ご丁寧なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のために祈りいただき、誠にありがとうございました。紙上をもって代えさせていただきます。

二〇一二年十一月
カトリック長崎大司教区
大司教 高見 三明

●福音化フェスタ・神父さんが歌うコンサート他(東日本大震災復興支援チャリティ) 1月14日(月)13時、カトリックセンター。教区福音化推進部主催。

●イエズス会立山修道院お知らせ ●祈りの一日

①1月21日(月) ②1月28日(月) ③2月7日(木) 10時~15時半 ●祈りの日々

①1月12日(土) ②1月14日(月) ③1月26日(土) ④1月27日(日) ⑤2月1日(金) ⑥3日(日)

初日17時~最終日15時。

Tel 095・821・4577

●講演会 1月27日(日)16時、カトリックセンター。テーマ「どう生きるか『信仰年』―現代とカトリックの信仰―」。講師・宮川俊行師(長崎教区司祭)。

●教区結婚講座 2月1日~3月5日のうち10回、毎週火・金曜日の19時~21時。カトリックセンター。申込先・教区家庭特別委員会。

Tel 095・842・4450

●26聖人殉教記念ミサ 2月3日(日)14時、西坂公園(雨天時は中町教会)。

●西坂・聖フィリッポ教会での「記念のミサとゆるしの秘跡」 2月5日(火)26聖人の祝日。9時、11時、13時、15時、17時。長崎南地区司祭団主催。

●教区シノドス・信仰年特別企画研修会 2月10日(日)13時、カトリックセンター。テーマ「信仰年改めて罪人を招くために来られたキリストと向き合う」。講師・森一弘司教(前東京教区補佐司教・現真生会館理事長)。

参加費無料。教区家庭特別委員会主催。

寄付

長崎コレジオ
長崎カトリック神学院
●平戸地区信徒一同様(援助物資とご芳志)を申し上げます。

香典返し

長崎カトリック神学院
●塚越信一様(浦上)故マダレナ
塚越ミツエ様

再び家庭を振り返る ⑧

家庭は、結婚から始まります。結婚は、神が人に与えた生き方の道の一つです。再び家庭を振り返るには、神にまでさかのぼって考える必要があるように思います。

「あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている」(ルカ11・13)

家庭は子どもに良い物を与える場であり、親は与える人だとイエスは教えています。何が良

い物か、物の善し悪しは親自身が決めるのではなく、親が神の代理者、代弁者として立つときに自ずと見えてきます。親の使命を神にさかのぼって考えるのです。だから、そのような「父母を敬いなさい」と第4戒は命じるのです。イエスも実際、ヨセフとマリアに仕えてお暮らしになりました(ルカ2・51)。

「家庭よ、本来の姿になりなさい」(教皇ヨハネ・パウロ2世使徒的勧告『家庭』17)

この勧告の中で挿入された一文は印象的です。神にまでさかのぼって見る心、「神へ戻す」祈りが、親にとっても子どもにとっても、家庭という生活体には欠かせないのでしょうか。

家庭を「本来の姿」に戻すために、家庭を応援する組織(同72)が、すでに色んな形で長崎教区には存在していますので、家庭特別委員会には、それらと連携しながらの活動が求められています。

長崎教区の家庭特別委員会は、長崎、佐世保・平戸、五島の3ブロックに分けられており、信徒と司祭が担当しています。それぞれ家庭生活環境や教会生活環境も違うため、現状の話し合いは3ブロックで行いながら

も、取り組みを具体化する場合、地域ごとに行うようになっています。家庭特別委員会が始まる前に、各地区にはすでに家庭に関心を寄せる講演会や勉強会など、すばらしい活動が実施されている場合もありますので、連携しながらの支援活動も一つの在り方です。



巡礼(貝津教会にて)

講演会 11月11日、福岡教会信徒会館において、複雑です。それでも神にまでさかのぼっていく家庭の戻りの支援は続けられなければなりません。これもまた共に歩む教会呼ばれた者の集まり」が、本来の姿へ再創造される動きの一つな

ふどう園

●信仰年・信仰一致週間カトリック・プロテストント合同特別企画 ①研修講演会 1月12日(土)14時、カトリックセンター。

②信仰一致合同祈禱集会 1月20日(日)14時、城山教会。長崎教区・長崎キリスト教協議会主催。

祭司派遣
便り

宮古から感謝を込めて

中尾 直通



たり、職員さんたちのための勉強会を行ったりしております。

宮古教会(岩手県宮古市)に赴任して8カ月余りが経過しました。宮古教会は比較的小さな共同体なので、一人一人が教会のことに無関心でいることができず、結婚式や葬式も共同体のみんなで準備しお祈りします。

こちらでの教会生活の中では、それぞれが困難や不安を抱えながらも、それでも元氣を出して生きていきたいという思いを持っていて、それを知らされいます。そして、そのためにこそ司祭を必要としていることも。

先日、こちらの信者さんたちに「長崎教区の人たちに何かお伝えしたいこととかありますか」と尋ねたところ、「やっぱ、感謝だね」と口々に言っておりまし

毎週火曜の夜と水曜の昼には聖書の勉強会が行われており、参加される方々の熱心な取り組みには驚かされます。資料を準備する側としてはなかなか骨の折れることですが、私自身にとっても大きな学びの機会となっています。隣には仙台教区の経営する幼稚園が併設されており、毎月の誕生会で子どもたちを祝福し



来ること、被災地にあれば、震災の悲惨さばかりでなく、それを乗り越えようとする人々の力強さも感じ取っていただけだと思います。

NAKAMACHI セント・ポール

閉店

改名を開設したが、昨年12月28日をもって閉店した。長年支部を設立。63年に中町教会の敷地内に新修道院を落成。同時に聖パウロ書院(後にNAKAMACHIセント・ポールに

1960年、大浦に聖パウロ女子修道会の長崎支部を設立。63年に中町教会の敷地内に新修道院を落成。同時に聖パウロ書院(後にNAKAMACHIセント・ポールに



昨秋、第57回長崎県美術展覧会(主催)など主催

で日本画部門の作品が、最高賞の「西望平和賞」に選ばれた。

西望平和賞を受賞

純心教諭 平山 理さん



材料、展示場、運搬会社と、いったくさんの方に支えられて初めて人に観ていただくことができる。美術はチームプレーで成り立っているんです。同じように、生徒たちにも、

「絵を描くこと自体は一人で言うことですが、(画材をつくる)職人画は、聖歌と聖書朗読で始

ないものを詰め込んでいく。『なぜこの作品をつくるのか』『この作品にどういう意味があるのか』。聖書も同じで、そのストーリーの中に別の意味が含まれている。ア

観ではなく聖堂内、祈りの場としての教会を描きたい。それからやっぱり、日本画で聖書の場面を表現したいです。描くとなると、取材や構成が難しいので検討中ですが、いつか描きたい」

私たちはこの1年の初めの日に、神の母聖マリアを祝います。キリストが私たちのためにすべてを捧げてくださった神の愛、その愛に最も近いものは「母親の子どもに対する愛」であると、ある神父様が言っていました。母親は子どものためなら何でもできる、その命すら惜しまない。母親はそれほどの愛とぬくもりに溢れる存在であり、またそうあるべきものであると十字架のもとにたたずむマリアが教えてくださいます。



山添克明神父 (浦上教会)

カット・山田優美さん (浦上教会・小3)

そんな親の期待に一生懸命に応えようと、子どもも頑張ろうとします。しかし、子どもも年を重ねるごとに、自分の考えを持つようになります。まったく親の思い通りに

マリアもいろいろな期待をイエス様に持っていたのかもしれない。しかしイエス様の周りに起こる出来事は不思議なことばかり。イエス様に口を出しても突き放されてしまう(カナの婚礼)。期待

いろいろな心配はあるが、いろいろな期待はあるが、何よりもまず幸せになってほしい。この願いをお互いに持ち寄ることが、幸せな1年の第一条件です。



ヨアンナ 今村マツ修道女 (お告げのマリア修道会)



マリア 江川ヤエ子修道女 (お告げのマリア修道会)

11月15日、平戸口の青州会病院にて帰天。95歳。田平町に生まれ、1940年田平修道院入会。託児所・保育所の調理および保育士として70年まで勤務。その間カテキスタとしても奉仕。その後修道院調理・農耕に従事。話し好きで料理上手、持

11月12日、福江聖マリア病院にて帰天。99歳。佐世保市で生まれ、16歳で大島の塩田愛善会に入会したが、解散となり、実家がある鹿子前教会で教え方として働く。1941年から台湾にて古川重吉師のお世話に奉仕。帰国後も奉仕していた

ミユニケーションの手段を使って福音を告げるために各地に派遣されています。激しい迫害に耐え、今も生き続けている信仰の場、こ長崎で49年間修道会の使命を果たさせていただきました。



長崎教区では2015年の(信徒発見)シノドスに向けて力強い歩みをしておられます。わたく

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

当社オリジナル商品
一筆箋(教会編) 定価350円(税込)
各種印刷物のお見積り無料です。お気軽にご相談下さい。

九州印刷株式会社

代表取締役社長 トマス 川原 保夫
〒852-8103 長崎市緑町4-5
TEL (095) 846-6844 FAX (095) 846-6845

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町 7-18 TEL (095) 844-4011
24時間営業 FAX (095) 843-9896

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
☎ (095) 862-2469
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル